

乳がん検診、治療、術後ケアなど

高砂市民病院（高砂市荒井町紙町）は、乳がんの検診や治療を専門的に行う乳腺外科を開設した。乳腺を専門とし、診断、治療を担当する稲尾瞳子医師（35）が新たに着任。マンモグラフィー検診も認定資格を持つ女性の診療放射線技師が担当する。稲尾医師らは「乳房に関する不安に、チーム医療で当たる。安心感を持ってもらえれば」と話す。

（小尾絵生）

乳腺専門の外科開設

高砂市民病院、女性担当医が着任

同病院ではこれまで、乳がんの治療などは外科で対応していた。6月に稲尾医師が熊本大付属病院から着任したのを機に7月1日から専門科を設けた。

乳腺外科は乳がん検診のほか、乳房のしこりや異常分泌などについて診断、治療する。乳がんの手術や、ホルモン療法などの術後の補助療法、緩和ケアなども担当。

乳がんは40～60代の働き盛りの年代に多い。稲尾医師は「家庭や仕事の役割、子育ての状況などを含め、患者さんと一緒に治療を考えていく」と方針を説明する。

芸能人が乳がんを公表



稲尾瞳子医師（前列中央）と、乳腺外科を支える放射線技師や看護師ら＝高砂市民病院

マンモグラフィー 乳がんの早期発見に有効な検診で、乳房を板で挟んでエックス線で撮影する。40歳以上は2年に1回の受診が推奨されており、自治体によってクーポン券などが配布される。高砂市民病院では昨年度、2800件の乳がん検診を実施した。

するなどし検診への関心は高まっている。一方で、マンモグラフィーは乳房をつかんで伸ばすなどするため、抵抗を感じる人も少なくない。同病院では以前から、マンモグラフィーの撮影をともに認定技師の田中弘美さん（35）と市岡直子さん（37）が担当してきた。田中さんは「女性同士で安心される方は多い。精神的負担を少しでも軽減できれば」と話す。

稲尾医師は2005年、高砂市民病院に研修医として在籍していた。「専門性を高めて戻ってきた」という気持ちがあった」といい、「地域に根差す病院として、術後のフォローや緩和的治療などもできる。やりがいを感じている」と力強く語った。

「家庭の状況含め一緒に考える」